

# みんなで作る地域の防災活動プラン

—石川県加賀市三木地区まちづくり推進協議会・三木地区自主防災会—

Blog 防災・危機管理トレーニング主宰（消防大学校客員教授）

日野 宗門

この連載では、「地区防災計画」の作成を重たいと感じている関係者に、もっとシンプルな計画（地域防災活動プラン（※））の考え方、内容、ヒントを全国の先進地を訪れ紹介しています。

（※）ここでは、内閣府のガイドラインに示された「地区防災計画」という整った形にはならなくても、「自分たちの地域の防災活動上特に大切なこと、本当に役立つことを自分たちのやりかたでとりまとめたもの」を地域防災活動プランと呼んでいます。

今回の訪問先は、石川県加賀市三木地区まちづくり推進協議会・三木地区自主防災会です。三木地区では、東日本大震災を機に防災の取り組みを強化し、注目すべき活動を展開してきました。その詳細を三木地区まちづくり推進協議会・三木地区自主防災会事務局長（三木公民館長）の竹本利夫氏、加賀市総務部防災対策課の南出寛人氏に伺いました。



竹本 利夫 氏



南出 寛人 氏

## 1. まちづくり推進協議会等の特徴と活動

### （1）まちづくり推進協議会と地区自主防災会

加賀市では、約30年前に全21地区（小学校校区単位）に「まちづくり推進協議会」を設置し、住民本位のまちづくりを推進してきました。市は、防災関連事業等の新規事業分を「まちづくり推進協議会」に補助金として交付し支援しています。「まちづくり推進協議会」下に組織された地区自主防災会はその支援を受け活動しています。

地区自主防災会は地区単位で設置された自主防災組織です。地区には複数の町があり町ごとにも自主防災組織が組織されています。地区自主防災会はそれら町自主防災組織の連絡会的な性格を有した組織です（次頁 図参照）。

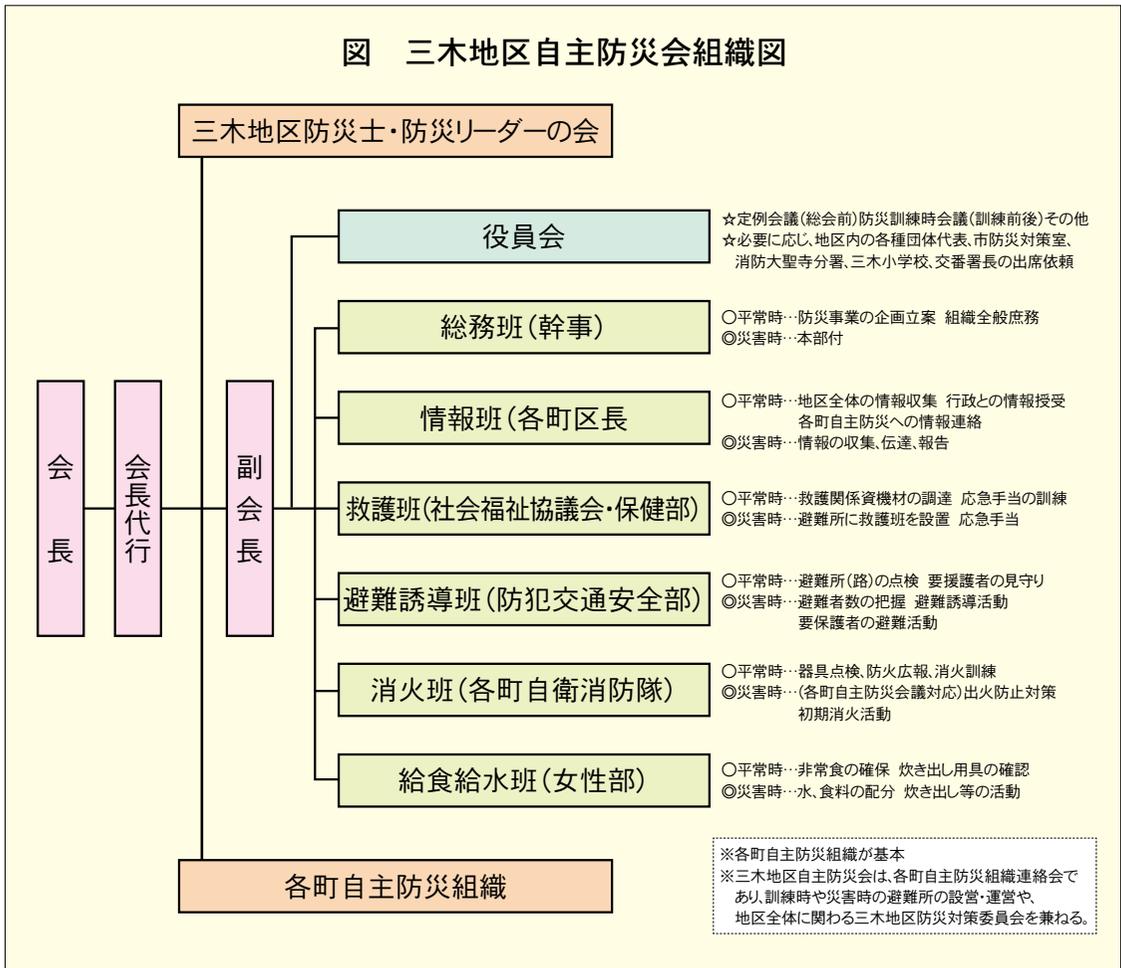
加賀市では、「避難するまで」を各町自主防災組織が、「避難したあと」を地区自主防災会が分担することとしています。背景には、災害時の避難所は一般的に公立の小学校が指定されることから、小学校区単位で設置される地区自主防災会が避難所運営を担うのが適当であるとの考え方があります。さらに、「地区＝小学校区であることから、地区自主防災会は地域住民以外に学校の先生や子どもたちと連携して防災を進めることができます。」（南出氏）

この方式は「加賀市モデル」と呼ばれています。

### （2）三木地区の特徴

加賀市三木地区は石川県の最西端に位置し、福井県あわら市に隣接しています。地区には641世帯、1,616人（平成28年10月1日現在）が暮らしています。津波への警戒が必要な海寄りの地域もあれば土砂災害が心配な山あいの地域もあります。大聖寺川沿いには地盤の弱い地域が分布しており地震の揺れによる危険にも注意が必要です。

図 三木地区自主防災会組織図



昭和23年(1948年)に発生した福井地震では三木地区でも大きな被害が出ました。

### (3) 三木地区の取り組みの経緯

三木地区には7町があり、それぞれが自主防災組織を組織しています。東日本大震災以前の三木地区における防災の取り組みは、各町が持ち回りで消火訓練を行う程度であり、決して活発とは言えない状況でした。しかし、東日本大震災の津波被害のすさまじさを見て、竹本氏らはこのままではいけないと真剣に考えるようになりました。

そこで、三木地区まちづくり推進協議会の防災防犯部(交通安全を含む)から防災を分離し、推進協議会下に新たに立ち上げた三木地区自主防災会に担わせることにしました。そして、「津波から自分の命を守るための避難」を最優先課題と考え、「皆が逃げる避難訓練」に精力的に取り組むことになりました。

## 2. 三木地区の防災活動

### (1) 三木地区避難訓練

三木地区では避難訓練を1年間の取り組みのゴールであると位置づけています。平成25年8月に

実施された第1回三木地区避難訓練には400世帯550人の多数が参加しました。その年以降の避難訓練でも同程度の参加者を数えており、避難訓練が広く定着しつつあります。

## (2) 各町での防災講習会

各町自主防災組織は、三木地区避難訓練の2～3か月前から避難訓練の目的や想定に合わせた防災講習会を実施しています。この講習会は、防災士・防災リーダーの会(※)の協力を得て実施されています。

(※) 防災士・防災リーダーの会は、日本防災士機構から認定された「防災士」及び加賀市消防本部から認定された「防災リーダー」の資格を有する者並びに消防関係者によって構成されています。

## (3) いのちの道マップの作製

第1回三木地区避難訓練後の全戸アンケートで、「どの道が逃げるのに安全か?」、「この道は石垣が崩れるのではないか?」といった疑問や質問が出されました。そこで、翌年の防災講習会では地図を見ながら、逃げ道にある危険な箇所や安全なルートを皆で出しあいました。そのようにして定められた逃げ道はいのちを守る道であることから、避難路とは思わず「いのちの道」と名付けました。

いのちの道を記載した地図を「いのちの道マップ」と呼び、毎年、避難訓練の反省を踏まえて見直しを行っています(写真参照)。



いのちの道マップ

## (4) その他

### ①加賀吉崎とあわら吉崎との合同自主防災避難訓練

歴史的事情により加賀吉崎(三木地区吉崎町)とあわら吉崎(福井県あわら市吉崎)とに県境で区分けされた「吉崎」地区住民による合同の避難訓練

### ②小学生と保育園児の合同避難訓練

三木っ子いきいき塾(「地域の子供は地域が育てる」をテーマに地域の大人が得意分野の「先生」役を務める教室。三木地区会館で第2土曜日に開催。三木小学校児童の半数が参加)と三木保育園との合同避難訓練

### ③消火訓練、救急救命法講習会 など

## 3. 地域防災活動プラン作成上のヒント

### (1) プラン(計画)はゴールではない

三木地区は平成26年度に内閣府の地区防災計画モデル地区に選ばれ、現在、地区防災計画を作成中です。現時点ではその内容を知ることはできませんが、次のようなコメントをいただいています。

「地区防災計画は結果(計画文書)よりもプロセスの方がより重要です。そして、そのプロセスを日々動かす活動こそが最も大切と考えます。」(南出氏)

地域防災活動プランについて筆者が前回に述べたことと全く同趣旨のご指摘です。

### (2) 三木地区自主防災活動計画は地域防災活動プランの一種

地区防災計画ではありませんが、三木地区自主防災会は毎年度の初めに三木地区自主防災会活動計画を作成しています。シンプルですが要点を押さえており、地域防災活動プランの一種と言っても良いでしょう。次頁表に平成28年度の活動計画を抜粋して紹介します。

## 1. 平成28年度の活動方針・・・前年度の活動を継続し、常に防災意識を喚起する。

直下型大地震に対し、全住民が安全に避難し、3日間の避難生活に耐えられる工夫の取組

※福井大震災のような直下型地震を想定した三木地区自主防災避難訓練の実施

- (1) 町ごとに直下型大地震防災講習会…各町自主防災組織主催（三木地区防災士・防災リーダーの会協力）
    - 10.16三木地区自主防災避難訓練に合わせて、直下型大地震を想定した講習会（8、9月中）
    - 各町の防災士・防災リーダーがそれぞれの町の防災講習会を担当（講師を含めて）
  - (2) 3日間の避難生活に耐える避難所運営の打ち合わせとリハーサル 9月中
    - ①防災コミュニティスクール（三木小）と連携した子どもの防災避難訓練のあり方の工夫
    - ②町ごとに避難所の仕組みや役割分担の打ち合わせ会 各町の女性部、保健部を含める
      - ・いのちの道マップの修正
      - ・各町二次避難所での役割分担や備え
  - (3) 10.16三木地区直下型大地震避難訓練…加賀市総合防災訓練
    - ・安全な避難
    - ・心休まる避難所づくり
    - ・防災訓練アンケート
  - (4) 三木まちづくり推進協議会 各部会の防災に関する取組
  - (5) 自主防災訓練以後の取組
2. 三木地区自主防災会役員・三木地区防災士・防災リーダーの会役員  
 (※この後に「図 三木地区自主防災会組織図」が添付)

### (3) まちづくりとの連動

竹本氏は、「防災活動はまちづくり活動の評価」を強調されます。それは、「防災は人と人をもっともつなぎやすいテーマであり、それにより人がつながればもっと快適に住みよいまちになる。住みよいまちづくりを進めれば人のつながりがさらに高まる。それがいざというときに力になる。つまり、防災の良し悪しでまちづくりの評価が決まる。」（竹本氏）という考えからです。そして、その考えをまちづくり推進協議会と地区自主防災会との強い連携体制が支えています。三木地区が大きな成果をあげているのはこの考え方が底流にあるからでしょう。

### (4) ぶれない継続的な活動を支える体制

三木地区の7つの町には区長がいて自主防災組織の本部長を兼ねています。しかし、区長は1～2年で交代することから、防災活動を区長中心にすると継続性が保てないという問題がありました。それを解決するため、防災士・防災リーダーの会のメンバーが各町の自主防災組織に幹事として入る体制としました。そして、彼らが中心になって各町の自主防災組織の訓練や講習会の計画の立案と実施を担います。また、防災士・防災リーダーの会は、三木地区自主防災会も補佐しています（37頁 三木地区自主防災会組織図 参照）。

この仕組みにより、三木地区では、「ぶれない継続的な活動」を可能としています。

皆さんの地域にもこのような人材はきっといるはずです。ぜひ参考してみてください。

### (5) 無理をしない活動

三木地区の活動は、「避難訓練⇒全戸アンケートで改善点把握⇒防災講習会や訓練準備過程で反映⇒避難訓練」といったサイクルの繰り返しを基本にしています。決して、1年を通して防災活動を行っているわけではありません。前述の「いのちの道マップ」も、防災講習会のときに修正作業を行います。その後は翌年の防災講習会まで手を加えません。

このように、三木地区では、皆が参加しやすいことこそが大切と考えています。そのためのスローガンが「無理をしない、みんなで一歩」です。あれもこれも欲張るのではなく、一歩ずつでも良いからみんなで前に進もうという考え方です。

上の(3)～(5)のスタンスや仕組みが、三木地区の防災活動を継続させる基礎になっていると思われます。

竹本氏は、「行事が持続して文化になる」という言葉が好きだそうです。避難訓練等が行事として継続され、三木地区に豊かな防災文化が花開くことを期待しています。